



繡像
警言

山石見英雄錄

五輯

一

遠
2509
35-29



運
2509
35-29

南海 水原玉藻畫圖

渡仇英雄錄

全部
七册



浪花
書林

文榮堂



隱士玉藻著岩氏英雄錄
累編叠出愈出愈奇。雨窓
之下。寒鐙之前。一繙之使
及不終卷。不能休焉。近來
馬琴翁沒後。此般之書。寥

渡仇英雄錄五編卷之二

清同治

案竊足看者。今對此編。不
覺拍案絕叫。嗚呼。不可謂
世竊也。天復出此般之文。
固非偶然也。豈帝天使喜
兒女子之眼耳。大文君子。
亦一繙之。以省其身。亦可
以竊大過矣。世文只莫為
尋常稗史一樣之看可也。
安政丙辰夏日錄於蕉竹
詩屋 雲壽醉史鵞鵝

復讐英雄見英雄錄第五輯總目次

通編七卷
十有四條

壹卷

龜山茶店折三詳太程
杉生山路種李拔大石

投孤村壯士索隱倫
括全州里正說群雄

貳卷

示謎語試英雄
辭財貨賑窮民

西湖柳枝靡東風
月老紅繩繫海外

參卷

冤獄初釋一世知音
離合有時千里良緣

哀王保津川流鷄
知仇杉生邨奇夢

肆卷

滯京寓殿衛耽浪遊
街處女元青逞騙術

巧言嬖妾惑阿王
果約小父養猶子

伍卷

父女相依托窟穴
公私異議踈骨肉

軍營秋從公駕
客窓兩招暮敵

陸卷

金剛禪途上遇阨
亡命郎月下屠賊

虎狼餘殃延豚犬
舉豪大慾殺宗久

柒卷

淫婦密贈鴛鴦鏡
凡夫迷搜觀音籤

暗廊燭滅季冬月風暴
幽室燭青四更天烏啼

總目次終

編中時日以永祿戊辰季冬望後為主至如記可樂齋牧野氏浦上宗久等話多湖往昔者此為客

復讐英雄見英雄錄第五輯總目次



明國西湖の妓

柳金英

青巻表
三世秘
紅線
絶域表

可樂齋
陳奮翰



杉生里正
高木茂彌太

他平橋并泉美
たゆみなく
せききそ人の
禮あつたわ
千畝杏林花馥

書童
橋稚

杏見郎



刻素
並良美
名字
一家芳

源二郎義雄

雪松

新月



食花
西施乳
亭出
心猿喜

山石瀑

牧野殿衛義行

安斤元青



乃以解快
終不免
當身罪惡
竟如何

重出
實室三郎
高野舉家

久宗郎二室上浦
實室
觀玄
金剛



報君一戰
忠臣鐵
脫主三更
義士刀

左馬權少允
牧野義順

田石力助

編中人氏 姓名目録

公侯將帥七名及陪臣家老と云々。勢ひ強藩に於て
死者六名の煩を以て目録に載記さる

武士 牧野司馬介義則

○殿衛義行 ○左馬権少允義順

源二郎義雄

○岩就主税助祐道 ○杉静江弘直

厚岩久大夫季安

○在田典物利高 ○浦上室二郎宗久
有慶入

石持力四郎暴雄

○金挺小鍊堅治 ○十々郡弥珍太家明

僧道 可樂齋 杉丈哉

○学童橋推 ○学童杏児郎
原姓陳氏 各名奮輸

偽室二郎 金剛禪觀玄

○阿片元青 ○乾木敬四 ○天低勘三

女流 柳氏

○呼子の晚枝 ○吳竹 ○雪松
本貫明の西湖の交 各名金英

新月 ○淫婦磐磐瀑

○室の素百合 ○雛婢深

農人 杉生里正高木茂弥太

○植作 ○畔平 ○陪隸 田面石力助
通計卅五名 此他有失名字者今不録焉

鶏喰栖三十助

奴僕 豆平 ○百舌吉 帰化 陳文

教員上言

永禄の北統の前州名嶋より城をり。立花山の城も豊後の大友家の族將を
り。戸次丹後守鑑連あり。その他小の高祖の城主原田隆種秋月小
秋月文種城主なり。後年天正の末に至りて小早川中納言平朝臣隆景卿
筑前一國を領有て初名嶋の城主とあり。其のあり。穴戸安藝守隆家へ
清和源氏形も。年里家と姻厚を以て吉川小早川小重と那家とを
委任いと重かり。屬將あり。筑前を領有て名嶋の城主なり。其のあり。
然るを本書初編の作者穴戸氏を名嶋の城主とせり。其の當時の形勢
を知らざる。杜撰といふべけれど。既ふ六日の昔蒲ふあり。其のあり。由
し。信れば我本書を詞で編むるも。已とを得ば。権且とくあれり
後年天正中のものを。永禄元龜の時とて。名嶋も筑前の國主あり

と。穴戸氏の名を借り。小早川氏の傍を写し。這を酷く作者の本意
ま。あうぬゆのうら。曩小蚤く上木志。前輯作者の誤りま。今うらふれと
い。何麼ふるせん徒小鷄肋の情を悩むもの。

曩小澤氏の嗣れ。本書第三編。越中國富山の城主を。佐々成政とせる
い。うらむるともや。佐々氏城中。小主より。この這。永祿の末尾より。十餘年の
の。ち。あ。天正の中。後の子。事。實。違へり。は。い。び。人の。美。を。成。り。翻
て。その。瑕。疵。を。云。々と。論。へ。小。人の。常。態。無。情。の。極。好。原。野。為。小。あ。れ。ど。は。そ。が
正。史。實。録。の。名。を。借。り。も。故。意。其。趣。を。異。り。有。無。虚。實。の。間。小。遊。ぶ。原。泉
稗。史。小。説。と。い。は。是。等。の。最。堪。難。れ。り。あ。れ。ど。亦。今。ら。う。改。免。難。れ。べ。聊
開。由。を。刺。楮。小。寫。録。と。して。看。官。小。報。告。ま。つ。る。もの。

は。て。發。販。の。書。材。も。ま。ま。三。つ。び。更。な。れ。り。そ。れ。間。星。霜。を。經。る。こと。三。を。バ
三。累。終。る。九。年。も。て。年。號。も。弘。化。嘉。永。安。政。と。三。次。改。ま。れ。り。這
亦。一。奇。と。の。ふ。べ。但。その。初。編。の。圖。画。を。浪。華。の。岡。田。生。の。戲。れ。京。師。の
故。人。速。水。春。曉。齋。の。遠。圖。を。那。這。と。名。く。居。妻。の。傳。奇。繡。像。の中。より
選。み。採。擇。し。譬。言。バ。那。孤。白。表。を。製。衣。保。が。若。ふ。り。せ。し。み。き。位。置。圖。格
み。那。故。意。小。本。編。の。與。に。設。け。し。東。西。あ。ら。び。を。以。て。その。支。と。照。し。う。る
時。ハ。頗。る。齟。齬。あ。ら。る。所。も。あ。り。り。往。々。履。を。隔。て。癢。を。搔。の。憾。あ。ら。ぬ。あ
ら。び。然。る。か。ら。ふ。這。ハ。除。た。り。爰。小。數。へ。ど。抑。著。作。の。勿。論。圖。画。も。ま。ま。各
その。用。意。異。な。れ。バ。開。面。月。自。ら。異。あ。ら。る。を。得。以。看。官。這。亦。の。より

を。知。ら。ば。一。く。率。尔。小。看。過。し。あ。ら。し。時。ハ。い。と。報。ゆ。あ。ら。る。べ。し。然。して。その。淨。書
と。割。願。の。精。粗。お。よ。び。製。本。の。美。惡。ハ。書。肆。の。意。を。用。ひ。ぬ。ると。否。と。ふ。係。れ。り。

復元英雅錄在編卷之二

依て今各編の異同を掲げ示はこと二の如し。

復讐言山見英雄録初編五卷分七冊 浪華書林 種玉堂 發兌

右弘化四年系師の人某の作る所嘉永元年戊申春正月發兌也

同 二編七冊 南海玉藻主人嗣述 浪華書林尚文堂 嘉永二年 已酉七月 發兌

同 三編七冊 浪花小澤東陽嗣述 書林同前 嘉永五年 壬子九月 發兌

同 第四輯 七冊 玉藻主人嗣述 浪華書肆 文榮堂

右嘉永五年冬刻成今茲安政三年丙辰春正月ふ發兌以その文

の備書と剽刷ハ是表ハ尚文學の刻を兩りて文榮堂主人の意ハ盈

ざるものヲ一

同第五輯七冊 同第六輯七冊 同第七輯八冊 六輯以下十五冊未刻

右五輯より七輯迄て総計二十二卷以て結局とを玉藻隱士謹識

復讐言山見英雄録第五輯卷之一

南海 玉藻主人編次

亀山の茶店ハ折三去程を詳ふ也

杉生の山路に種李大石と抜く

再説野村新十郎種李ハ縮屋折三主僕と侶ハ皆挂山城國の歌店

を立出て行ねども才ハ二里許の程るれば尚已辨ハ到らぬハ既ハ丹波國

ハ入り。壽長記龜山の城下ハ着ぬ。這里ハ桑田郡ハあり。二丹但馬祖徠

の驛るれば街長く茶店多あり。馳て一座の茶店ハ入て休らふ。

折三ハ種李ハ對ハ豫て此間よりハ和君ハ稟ハ像ハ。這龜山ハ乃

街稍盡處ハ園部と篠山道との岐路あり。湯嶋ハ仍ハ小ハ篠山ハ

徑て但馬國出石より。豊岡ハ出づ。那園部を徑て福智山ハかゝる

ようりの行程二里許も途く山阪些ちけさへ歩む小難みる。然れ
 柏原和田水郡の邊りと。出石との間。大河より大雨の時。別て渡
 り難らば。往還の旅人多く福智山へ赴たぬ。抑京より湯嶋への道
 程ハ丹波祇園部福智山を經るも。三十五六里小過ゆ。又天の橋
 立成相るどの。景を見る與。丹後迂田の路程ハ卅里ハ尚遠かり。何
 此の路を取んとも。ハハ大人の隨意るべけと。酒家の直小。本貫但馬
 なる竹田の城下赤松下野守に。歸た船してハ福智山へかまを本州
 丹波と但馬の界ある野方朝来郡に。一劫を登り。倘柏原の道ハ出友
 同き國の界。遠阪嶺十有八町を過て。柴邨へかりて歸りぬ。や
 這龜山より。柏原へハ十三里餘り。但馬界へ五六里も有り。何方
 國界より竹田へハ三里ハ途く有り。出石ハ竹田の城下より。東北の方へ距

こと五里許もやいん。竹田より湯嶋へ北を投り十三里有り。されハ出石の
 城下より舟を僦て。那養父河を下り。金泉場へ坐り。到ぬ。然
 許の迂路。何れ願ふ大人も竹田に來り。酒家が東人小紋活も紹
 介はり。萬かん導きて。近屬の賊難を極ひ。萬分の報恩も仕
 了と。と眞實て苦小勸む。種季も望み最悦。和主の東人ハ某逢。死
 要ハ何れ秘ども。路の便のよも何れ。足下ハ伴ひ行ぬ。然有れ知ら。像
 之。皆掛め。俺を極ひ。且詩を遺して俺ハ眈甘。唐人醫師と云ん。這
 丹波の人氏を。と听ハ一旦此人を索ね詢。一言の謝辞を演んと。思ハ
 つ。這首。て変て。際費の緋ある。俺ハ去向を急がぬ。旅あり。足下東
 人の經紀の所要を勤る。船有り。時候ハ十二月の季。小途。結。急遽。死
 際會。む。ば。俺ハ管。ハ。快々。歸り。之。とある。折三。ハ。有理。如右。云ん

一いカねし。宣ふ隨意先早歸りも。東人共侶東儲の準備して。
 和君を等受まうさん。疾かき遅くれ。必以諮來らせり。鳥澁おの
 ほど。酒家が東人縮屋小紋治の竹田の街市小隠れるけし。諮せ
 難くもあら。とつて種季含笑。往方定免。吟ひ歩行。浮
 浪人を等んい要ね。所為うい。あれば。戸頭の緯いらち。措福といひ
 も。茶博士を。あな喃々と喚述けて。曩小沓掛の歇店。林屋竹松あり
 聞き。那唐人醫師の形容を巨細小説て。倘這地頭。信る人やあると
 諮るに。這処より南のこの山郷ある。矢田の奥。杉生と喚做。寒村
 小。那人の栖ひけりぬ。と奮ふ。種季蝨も。開所在を听得。をうら
 悦び。躰て這茶店。折三主僕と分離の酒盃を巡ら。薄酔。寒江
 を忘る程。共侶。這筵を起出。種季の南の方へ。折三主僕。西を投て。

路を分け。岐の一要。傳在。餘波。惜。口。詛。も。有。係。急。遠。去。げ。小。冬。の。日。
 脚の蘭ぬ。間。小。卒。や。欲。去。と。別。け。り。折三主僕。這。下。話。説。し。小。程。小。種。季。の。那。唐。人。醫。師。を
 諮。ん。ど。大。和。魂。武。士。の。道。を。直。に。杉。生。の。里。乃。去。程。と。人。小。諮。得。て。龜。山。川。の
 源。へ。流。せ。に。傍。て。ゆ。く。と。い。ふ。と。数。ね。ら。れ。下。矢。田。山。矢。田。或。は。矢。代。も。傳。る。を。那。方
 へ。旅。る。と。い。ふ。猛。可。小。許。多。の。人。聲。の。何。と。响。た。て。動。揺。め。く。と。但。見。ば。前。山。の。半。腰
 なる。一。條。の。溪。川。を。填。塞。む。り。り。小。蹲。ま。り。小。阜。の。像。あり。巨。口。を。よ。の。四。下。の
 莊。客。あり。その。數。約。莫。百。名。許。或。は。大。索。を。挂。け。或。は。鐵。鉗。を。容。せ。り。
 諸。聲。併。せて。拾。起。さ。ま。く。も。容。の。腐。て。墮。ら。桃。子。聚。ひ。蝻。小。髻
 繫。り。ま。こ。此。一。平。坦。なる。結。縷。叢。小。兩。處。す。大。篝。を。燒。さ。る。送。代。り
 船。を。煖。人。準。備。と。知。れ。ぬ。こ。ハ。什。麼。を。做。中。ん。と。思。ひ。ま。ら。も。稍。途。く
 ち。り。ぬ。時。も。季。冬。の。中。僻。る。と。い。ふ。冬。枯。と。い。ふ。木。葉。の。み。久。川。水。さ。小。酒。々



龜山の
茶店の
野村新十郎
別居折三

浅くいあしど然許の大石小塵れしつ水は溢きて川の左右る岸相
 て幾稜と知らぬ梯田の面へ賤かき路さ滑りて晴る天も霽回るま
 雨の山路小異なりは浩処か一個の莊客種李と喚被て屋よ旅の刀
 祢見の若く。這里の征客の往還正路にあらびく。折もあん身の甚
 廢の要ありて。那里を投てゆあふせと問は種李微笑す。訝る理る
 信る一村落の細路を俺故意に分入る杉生の村よ索る人のあまは
 るりと合ふる詞をよくも得聴て。そいと便るは緯よへ杉生の咱們が在
 所そ那里は迹くはゆる村里に即是あり。固り這里の那里へ通る路も
 ど容易うらぬ障碍の緯ありて。俺郷のまか上矢田下矢田淨法寺の里
 人達さ。這首小田圃のちも無も共侶は耕作の便宜を失ふ故を信も
 集合す。掙札の最中なれば。這路を通らせあふと克ふま。といふ不續たて。

賜夕の莊客大家齊一闔郷の東西没不要もな征客の倒し緯の妨之
 快々後方へ返らせると。訛音高く罵めくふぞ。困果る種李は海れて莊
 客們ふりち對ひ。闔郷の障碍とある。緯ぞ一聴は各の劬勞然とと本直
 ちり。俺の野村新十郎と呼はる。西國の浮浪人なる杉生不栖遲あると
 聴く。唐人醫師の所要あきて對面せま欲はる。只一個の某が只一回乃
 往還るべ然許の害も。做すと覚ぬ願ふ路を貸て邁されはや。抑
 障碍といふ什麼ある緯よ。聴せよ。といふ一個が找み出て噫個刀祢は蓋あ
 ちとをも。詰めよ。然らばわんかの解疑は採摘で話り聴せよ。あはせん。這
 首の山脉連る。那方の山は明神嶽といひ。去る雷無月中浣の緯あり。此
 有一日天結陰り。風凄く吹暴びて。晴なりぬ雷さ。甚く霹靂して。開
 夜艾那嶽の頂より。轟然とて東西の响震ひ響けて。萬竿の竹一齊

破るが像之樹木を劈り石を轉し。沙埃を霏羅する。山崩し噴出する水影とて。山脚の田圃も。涵されり。這螺脱とて。その息劇に。一夜の静まり。折あれ。個川中。大磐石の。隅り程。復も。壓を室れ。川あ。溢りて。左右の山田。流れ入り。ぬ。今。あ。冬。個の川。浅く。春。形。雪。津の水。増。夏。入。迎。梅。雨。ま。黄。梅。雨。の。時。候。分。苗。の。巨。害。と。多。人。信。多。個。巨。石。を。會。も。除。び。本。邨。の。難。澁。多。矢。田。洋。法。寺。通。て。山。麓。の。村。落。同。患。あ。り。故。里。正。刀。祢。達。と。故。老。の。參。會。商。量。七。八。番。小。及。び。會。除。ん。の。み。そ。術。も。非。如。巨。石。を。居。君。の。石。匠。の。吩。咐。石。鑿。も。て。幾。箇。も。擊。割。て。捨。ん。難。も。あ。ら。じ。然。バ。京。白。川。の。石。匠。を。央。ふ。要。れ。と。の。者。も。あ。き。ど。然。で。日。子。數。を。累。ひ。て。地。方。の。散。財。君。を。

川の這方の山脚あり。山の峽あり。あ。り。國。り。水。を。空。谷。形。三。个。村。の。合。保。力。を。戮。せ。壯。伎。們。の。臂。力。鉋。し。左。右。も。ま。て。轉。し。墮。し。和。高。量。あれ。一。波。ぬ。き。昨日。隔。昨日。より。巨。索。鉋。鉋。る。と。準。儀。去。て。今。朝。早。旦。より。信。居。君。の。人。ま。り。て。那。大。石。を。會。除。ん。と。半。日。拘。ま。り。寸。の。功。り。を。け。し。此。上。い。ま。更。人。ま。を。倍。の。外。へ。信。居。地。方。の。水。匠。も。俺。們。も。然。ら。ず。負。た。莊。客。の。水。契。と。終。ハ。水。も。得。喫。び。と。活。潑。も。氷。と。形。ら。ん。這。寒。天。を。敷。り。て。信。居。君。の。情。由。で。ハ。粉。擾。の。俺。村。へ。什。麼。も。要。ら。ぬ。旅。の。刀。祢。ハ。這。方。に。要。ら。ぬ。返。ら。せ。る。と。田。舎。鬼。の。矯。飾。も。多。く。本。訥。の。説。話。も。種。々。の。稍。沈。吟。ま。て。那。巨。石。を。信。と。又。刀。頭。の。地。勢。を。熟。と。考。え。視。る。と。那。男。も。對。ひ。て。執。行。意。を。得。り。信。居。君。の。最。烏。許。ハ。何。れ。と。這。等。の。倅。ハ。信。許。の。人。を。役。使。る。有。

理中費の及かぶべし。那石は在下が目今令除く。衆人の患を拂ひ。俺もや
吾所要を遂ぐべきあり。這議不随せよ。と云ふ。那男の失笑。屋より跡その
甚を宣ふ。百人餘の脅力あり。動くはみん。竟に難た。巨石を單身引て
詎くせせん。工夫口より宣ふ。戯れ。固て快。恠みへ。咳く。可。他の丙丁も。辞
齊一。植作翁措。後。噫。益も。必。同。各。い。と。短。比。冬。の。日。の。影。を。愛。と
の。思。ひ。や。卒。や。德。菟。り。ふ。今。一。精。發。推。て。ん。せ。や。と。聞。く。を。種。季。や。と
抑。禁。免。了。倍。と。面。色。を。正。一。聲。高。や。ふ。人。を。知。る。が。和。主。們。の。無。礼。多。辭
氣。の。怪。む。も。更。ら。れ。ば。も。大。丈。夫。の。一。言。口。より。出。て。後。あ。い。止。む。た。和。主。達。の
を。停。せ。て。憩。し。ひ。い。い。や。山。脚。の。空。谷。へ。俺。個。石。を。衝。轉。り。て。見。ま。べ。と
川。唇。迹。く。找。む。み。ぞ。莊。客。們。然。も。ふ。倦。み。困。せ。と。記。る。れ。ば。且。個。征。客。が。隨
意。し。せ。ず。縛。做。ぬ。開。時。不。調。弄。弄。て。娛。ん。も。亦。興。あ。る。と。大。家。目。を。り。て。意

を。標。し。然。は。旅。の。刀。柄。の。お。ん。本。夏。を。引。て。後。世。の。話。柄。も。他。え。い。ん。と。冷。竹。火
ひ。の。皆。共。侶。後。方。へ。退。り。て。結。縛。草。檀。の。燒。火。ふ。より。傳。も。奔。一。這。方。を。ち
り。を。り。有。右。程。子。種。季。へ。些。も。躊。躇。と。氣。色。形。く。太。刀。の。緒。解。き。雙。袖。を。齊
く。絞。り。垂。襷。霜。枯。の。岸。の。寒。草。踏。ま。れ。と。や。川。中。へ。找。み。入。る。ふ。個。落。と
る。水。の。才。ふ。兩。三。條。織。方。と。沙。磔。の。間。に。潛。み。流。れ。て。川。身。み。又。川。字。を。寫。ふ
似。て。踵。を。没。せ。る。も。無。れ。ば。便。宜。を。得。る。種。季。又。那。巨。石。の。傍。小。立。あり。双。石。を。石
稜。小。彼。り。立。る。形。勢。一。際。勝。れ。大。漢。子。の。身。材。昂。く。四。下。を。拂。ふ。大。丈。丈
の。威。風。忽。ち。發。見。て。金。剛。神。を。欺。く。執。力。ひ。凜。然。と。今。這。が。れ。爲。体。不。動。也
り。侮。り。欺。た。ら。莊。客。們。嬉。め。て。唾。を。咽。え。呼。吸。を。促。我。も。あ。ら。う。て。惘。然。と。り
ち。目。成。る。間。も。あ。ら。う。種。季。へ。呀。と。聲。被。て。双。腕。を。全。身。の。力。を。極。め。壓。一
壓。て。空。さ。ま。に。衝。抗。れ。ば。恐。る。べ。し。然。し。も。小。阜。を。欺。く。一。大。磐。石。の。反。揚。ら。れ。て

岸より上へ球を轉ぐれば像は躍登るべし。種李透さば續て閃閃と身を
 跳らして岸上へ悄立ちり。その怪力とその割姚も居るの莊客も感ばて
 喝と来る聲研小舎へ。霎時ハ動揺止りける。登下野村種李の尚も件乃
 巨石を六七番推轉りて那空石へ衝墮せし自然然す尋の谷へ滾ひり。响
 大地を震動し。研は徹て凄々。既りて谷底へ墮着久。就てハ响寂らぬ。然
 れに聚合し莊客們的這容態不直と呆れて胆を潰し魂を銷。大家猛可小種
 李が前小找み額衝し。數回嚮より無礼あるを勸解て那石の數人村の害小
 做に東西もて合手除んゆも駭に散財のみも。縛果なうも多し。任御庇
 ふよりて速不綽濟て。幾若干の費を省たぬ。今より後の長く溪水の溢る患
 あるべし。實小大人の這四下の城隍神も怖る。且快燦の頭ふよきて。寒江を
 護だぬも。誘ひ多て。話あり。東西欲るも。酒家們が午餉乃

簞食の尚餘も有んが。然もどもあれは。箴臍腊し。倘不教を乞ふも。獨
 酒でもまわらせんと。管待態の喋々。表見を。種李ハ固く推辭し。嚮よりいひ。像
 人。人をまわる俺がれば心憐ぬ。快也。と袖を拂き去んとする。改移生の植作。提
 撕貌。小刀。称且。さよ。喘りある。酒家們も御庇より。辛苦せし。捧やら鐵鉗。中
 共侶。小今の要る。なり。あれ。直し。刀。称。小。人。伴。當。ま。里。正。許。小。人。案。内。は。ら
 人。索。ね。さ。せ。る。醫。師。刀。称。小。那。地。少。逢。せ。ぬ。先。快。這。情。由。を。稟。遣。ん。や。ど。一
 要。等。せ。ぬ。と。抑。禁。め。て。後。方。顧。り。喃。八。畝。圍。の。畔。平。叟。和。主。ハ。獨。り。蚤。く。歸。り。て
 長。刀。称。へ。目。今。這。里。よ。て。見。り。所。も。あ。る。儘。を。報。お。稱。と。い。ふ。會。意。畔。平。や
 躬。を。祝。さ。り。走。り。け。り。扱。も。上。矢。田。下。矢。田。淨。法。寺。の。里。人。們。五。六。十。名。の。く。種。李
 小。謝。を。演。告。別。て。歸。ん。と。さ。る。程。小。植。作。を。首。先。移。生。の。莊。客。も。共。侶。小。集。再。を
 ち。減。し。各。小。麻。索。捧。鐵。鉗。あ。ん。ど。拿。飲。め。互。小。可。賀。々。々。と。り。ち。款。び。つ。二

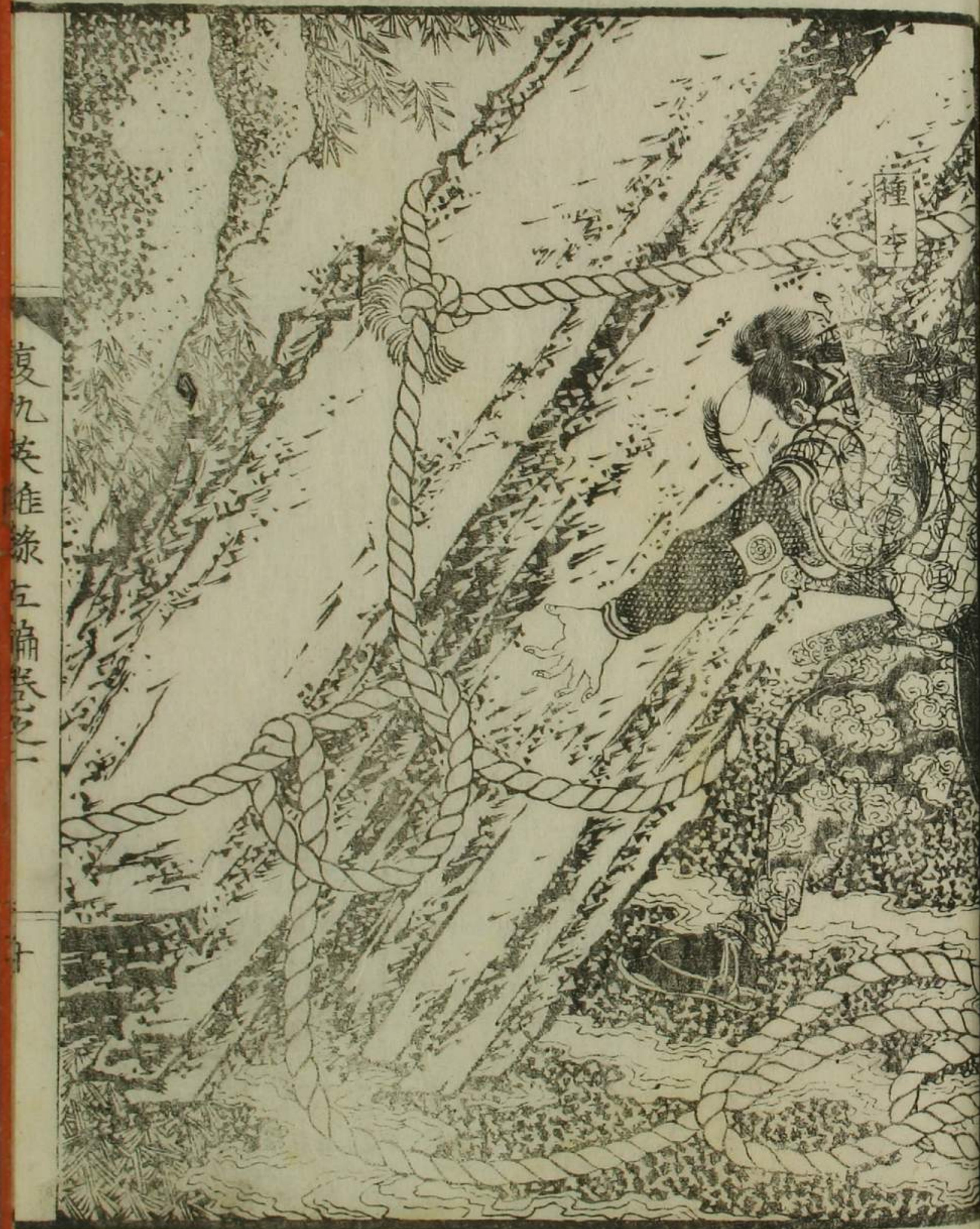
方かたのその村落むらへもろもろむどど。種季たねき小案内せうないまで杉生すぎのの里さとへ帰かへる者もの四十名あそひやくにんの過あやざりける。

孤邸こていを投なげて壯士さうし隠倫いんりんを索もとむ

全州ぜんしゅうを詳あきらまして里正さとただし將帥しやうすいを評ひらむ

冬ふゆの日ひ程ほどの短みづかくを親おやの亡なくもむる。新十郎しんじゅうらうの衆人しゆじんと侶り小連せうれんりもいそ冬ふゆの程ほど。就すなはち杉生すぎのの村むら捕とら盡じん處ところふ来きよけきよ里正さとただしより既すでに早はや畔はた平へいの報つげ告あやせしふ意いをえ得えず。二名ふたにんの奴やつ隸れいを来きよせぬら茶ちや種たね季きふち對むかひて東人あづまの吟うた咄ばなしを迎むかへまへ来きよふりはくと演のうずし儘まま先ま立たつし家いへ小こ誘いざなひし衛門ゑもんを入い程ほどにまちち等ら設たてるし准じゆん備び快たくも。小厮せうし兩りやう個ごが汲くみ食く。温湯ぬるまじの浴ゆ盤ばんを昇ありて来き。種季たねきふちをを濯すすぐふぞ。一個いっごうの老僕らうぼく出いで且かつ客房くわふへ誘いざなひし。富裕ふよある家いへの管くだ待まち疎そ図ずありに大おほたやある醜みにく鬼おに火ひ盤ばんの火ひの熾さかりて炭すす子こ聲こゑあり。皂せう毛もう納なるし襦じゆの熾さかるし。

厚綿あつわたよりも輒さり。登時とんじ老僕らうぼくの種季たねきを上か坐まして請まを找ためて額ぬかを衝つけし旅行りょぎんの疲つかを勞らうらひ。本日こんにちの敷しきを演のうて退あるし久ひさくし習しるが似にく。小厮せうし養娘やうぢやうの菓子かしを運たびし茶ちやを薦すすめしるし。向むかもし何なんらし次房じふぶより二に三さんつつうち咳せきれて本宅ほんたくの主ぬし人ひとあらぶ。四十よんじゆ有餘ゆうよの男おとこ出いで来き。除のぞき席せき小こ着き種季たねきは對むかひ礼れい正ただき。可か即すなはち這こ杉生すぎのの村長むらぢやうある高木たかぎ茂しげ弥や太たといつつ者ものははり。却かえも今日こんにちの不ふ意い和君わにぎみの子こをしせしるし以もて地方ちほうの患わざはひを除のぞく。公こう散さんの俺おれ寒村さむらへ勿な論ろん。矢田やたの上下じやうげ淨法じやうぽう寺てらかどの村人むらぢやうもあれしより長ながく所ところ庇ひ頼たのむ者ものははり。絶あきら驚おどるしかん身みの力量りきやう古話こわ小こ听きゆる。泉いづみ小こ二郎じらう親衛しんゑ朝夷あさひ三さん郎らう義秀ぎしゆよし中ちゆう古こある妻めづ鹿孫かづん三さん郎らう。初はつの名な長宗ちやうしゆん。後ご不ふ貞しん補ほと改かへ。あらどいもし猛もう者ものははり。比ひつつ公こう比ひ有理うり尋常じんじやうをらぬし勇士ゆうしの績いせきをし一朝いちぢやう一夕いちせきの酬むかひ難がたうし。定さだめて武者むしや修行しゆぎんをし。あらどいもし草枕くさまくら長なが旅宿りよじやくの壁生かき草くさの何なん日ひまでも。小可せうかかん宿しゆくをしらし。無な下げの田舎いんがで



仁者の勇力千鈞の
 石を谷に捲ぐ
 長く山村乃善を除く

いへ東西置きて然せるおん軟待もろく。詞敵不足る者も無れども。這里は且杖
 を駐免て。波多野家の本城八上を始め本州諸將の城下を廻り覽ぬ
 の。勇士達の憑ちた垣を結びぬべし。倘官途の志おこさんふ。自然の姿
 助を得るべしと正首より告るゆぞ。種季も亦更めて名を告り。初見の口
 誼苦みのべす。在下僅少筋力ありとも。那石の高は処より。低は谷間へ轉ば
 せしめて。自然地の利を得られ。做易に縛あり。任心を義勇胆界の英
 雄と。親衛義秀。はらり。亦那妻鹿貞祐も。大力量のみならず。六韜
 三略の旨を明し。幾度か軍功比ねれば。人中虎と時人の嚆。做る。豪
 傑あり。俺今日のまとい。一力士の所為のみなるを。那人々企及ん。該いあらば。
 事を好み名を銜ふ似て。最も愧がらざるがら。只管路の碍る。仍ま
 し。いふ。會も除く。這俺私との與るふ。徳とて人。恩を賣弄んや。主
 人の襟裏美い酷く當らざら。且在下の嚮は衆人告。一儂く。那醫師許
 諮る。此要あり。願ふ。案内。一個の人を貸す。快醫師許。此に。争々と
 促す。茂弥太。い。うち。含笑す。い。既。會意。ゆ。且。什麼。縛も。酒家。任
 せて。安堵。現。乃。者。の。短。日。あり。小。酷。く。時。を。移。す。れ。暮。ぬ。間。に。卒。々。饌。と
 進。ら。せん。水。風。爐。の。湯。も。恰好。時。候。ふ。い。ん。何。を。先。も。も。和。君。の。隨。意。志
 々。い。の。同。小。婢。が。捧。げ。來。る。猫。脚。の。鬆。折。布。を。種。季。が。膝。の。側。へ。措。居。さ
 べ。茂。弥。太。い。ん。布。り。て。然。で。且。夕。餉。を。喫。す。小。可。い。一。霎。退。り。て。莊。客。們。を。その
 家。々。へ。放。還。去。ら。ん。と。中。を。う。那。方。へ。出。志。す。種。季。は。筋。拿。抗。て。饌。を。見る。ふ。山
 懐。の。田。舎。調。理。も。意。を用。ひ。菜。羹。松。茸。の。み。を。乾。り。け。は。多。鶏。子。の。き。ま。が
 與。春。彩。ら。ね。ど。も。野。こ。や。摘。む。花。の。青。丹。ら。み。胡。蘿。蔔。の。色。は。遠。山。の。花。も
 實。も。ある。大。栗。は。這。本。州。の。名。著。し。汁。は。豆。油。湯。の。鴨。羹。水。芹。の。香。を。助。け

いへ東西置きて然せるおん軟待もろく。詞敵不足る者も無れども。這里は且杖
 を駐免て。波多野家の本城八上を始め本州諸將の城下を廻り覽ぬ
 の。勇士達の憑ちた垣を結びぬべし。倘官途の志おこさんふ。自然の姿
 助を得るべしと正首より告るゆぞ。種季も亦更めて名を告り。初見の口
 誼苦みのべす。在下僅少筋力ありとも。那石の高は処より。低は谷間へ轉ば
 せしめて。自然地の利を得られ。做易に縛あり。任心を義勇胆界の英
 雄と。親衛義秀。はらり。亦那妻鹿貞祐も。大力量のみならず。六韜
 三略の旨を明し。幾度か軍功比ねれば。人中虎と時人の嚆。做る。豪
 傑あり。俺今日のまとい。一力士の所為のみなるを。那人々企及ん。該いあらば。
 事を好み名を銜ふ似て。最も愧がらざるがら。只管路の碍る。仍ま
 し。いふ。會も除く。這俺私との與るふ。徳とて人。恩を賣弄んや。主
 人の襟裏美い酷く當らざら。且在下の嚮は衆人告。一儂く。那醫師許
 諮る。此要あり。願ふ。案内。一個の人を貸す。快醫師許。此に。争々と
 促す。茂弥太。い。うち。含笑す。い。既。會意。ゆ。且。什麼。縛も。酒家。任
 せて。安堵。現。乃。者。の。短。日。あり。小。酷。く。時。を。移。す。れ。暮。ぬ。間。に。卒。々。饌。と
 進。ら。せん。水。風。爐。の。湯。も。恰好。時。候。ふ。い。ん。何。を。先。も。も。和。君。の。隨。意。志
 々。い。の。同。小。婢。が。捧。げ。來。る。猫。脚。の。鬆。折。布。を。種。季。が。膝。の。側。へ。措。居。さ
 べ。茂。弥。太。い。ん。布。り。て。然。で。且。夕。餉。を。喫。す。小。可。い。一。霎。退。り。て。莊。客。們。を。その
 家。々。へ。放。還。去。ら。ん。と。中。を。う。那。方。へ。出。志。す。種。季。は。筋。拿。抗。て。饌。を。見る。ふ。山
 懐。の。田。舎。調。理。も。意。を用。ひ。菜。羹。松。茸。の。み。を。乾。り。け。は。多。鶏。子。の。き。ま。が
 與。春。彩。ら。ね。ど。も。野。こ。や。摘。む。花。の。青。丹。ら。み。胡。蘿。蔔。の。色。は。遠。山。の。花。も
 實。も。ある。大。栗。は。這。本。州。の。名。著。し。汁。は。豆。油。湯。の。鴨。羹。水。芹。の。香。を。助。け

長子。波彦野二郎大夫後五郎義通が末葉にて。世々本州多記郡八上莊八王村の小城小居り。麾下小屬する將士。細井中守教業ハ八上の東。福住同名桂の里。波彦部次郎左衛門光政ハ福住の西。小中と井上又初井と云ふの向あり。八上の北。方。草山桑原遠方川坂の城主。細見左近將監。信光ハ世々細川家子。後。居たり。今ハ波彦野小屬せり。草山の南。小。當れ。曾我部莊畑村。形。八百里山の城主。畑牛之丞守能ハ往昔新田贈中納言義貞卿子仕え。あつて。畑將軍と勇名。敵小妻た。る。六郎左衛門尉時能。後。胤。隠れ。形。勇。士。あ。つ。て。波彦野が幕下。り。又。氷上郡黒井城主。赤井忠右衛門尉源直正一書保月の城主とす。名も景遠とす。誤り。赤井氏ハ河内守頼信。三男掃部介。赤井子息。井上二郎備實。三男大炊介。

家充。是あり。兄。形。り。判官代遠光と侶。丹波。配流。せ。る。遠光ハ大槻家の祖。り。家充ハ葦田家の祖。り。家充が六世の孫。九郎。為家。姑。赤井と稱號。以。所謂。六世。と。家充を初め。り。て。太夫道家。判官代忠家。八郎。忠範。八郎。朝家。及び。為家。り。為家。あり。後。十一世。赤井。忠義。又次郎基。五郎家信。五郎三郎家職。左衛門尉光家。左衛門督忠家。左衛門尉親家。左衛門尉直家。兵衛大夫仲家。越前守時家。まで。通。て。十六世。丹波。住。ぬ。時。家。が。嫡。子。兵衛。大夫。家。清。に。去。る。弘。治。三。年。二。月。六。日。小。三。十。三。歳。あ。つ。て。卒。す。其。子。五。郎。忠。家。ハ。今。も。存。在。す。一。年。一。十。歳。子。あ。つ。て。丹。州。奥。三。郡。の。尚。十。齡。も。足。ら。ず。あり。一。六。叔。父。の。直。正。あ。れ。を。捕。け。り。丹。州。奥。三。郡。の。政。を。執。ら。る。又。桑。田。郡。龜。山。城。に。内。藤。五。郎。兵。衛。忠。行。あり。下。他。藤。山。餘。田。鹿。集。過。部。宇。津。八。幡。山。福。智。山。漢。部。あ。ん。ど。の。地。方。に。泛。々。の。地。侍。り。て。

有ども歯牙子掛ぐもつゝ。這是種季が詰り隨せ。高木茂弥太
 が食ぬ。説話なるを尚作者の意りて。辭を更し詳し寫出せしむり。
 閑話除繁。信て種季の主人茂弥太と孟の筆壽添るまづ。ふ人を等回の長
 談脩話。不覺小奥より。時候那醫師の許へ使せ。小廝此歸來り。
 由を告報んと客房の戸川の隙に跪くを。茂弥太の早々顧りて。百重吉欲
 快かりき。醫師刀柄より伴當せびや。とある小廝の否那方さぬ。植作が姨
 形り。睦醫の老某波が蕎麥粉團の粉を捏んとて。届ぬ棚へ手の延べて
 も屈曲し腰を伸擲ぬ。框を踏もつゝ。小庭へ醫餅搗りあり。猛可
 子癩不閉塞ら多。を吊診れ。信て今夜の歸られ。留守せし
 塾童の稟あふ。と儕が名よお鳩の像。百轉れば。傍聴せし新十郎も笑
 片向し主人子判ひ。所が若人の那人の變。今夕の詣來。今夕の詣來。今夕の詣來。

斂免の。再三請ふ。茂弥太も然り。婢と百吉吉。願指あし。
 盃盤碗碟を撤了させ。尚茶を薦めて。一霎譚話。夜の長あれど。和君
 の疲せ。りん。意倦ぬ。心屬り。おん臥房の那里の編室。預て設さ
 せたり。横の裾れ。脚爐をや納措り。寛く就寝せし。明日亦
 日。系入。席を。天の雁と供與ふ。野寺の鐘。音
 信て霜夜。声鶴々と。初更を。這里。報る。種季も。養娘
 們の案内。信せ。編室の。臥蓐。入。目睡り。却詰朝。種季の。客房。小
 在。家主。茂弥太。出。て。等。昨日。より。東。熊。の。厚。比。教。を
 演。て。昨日。の。心。も。惴。れ。上。み。緯。子。冗。拵。り。那。醫。師。を。訪。せ。欲。せ。情。由
 を。和。殿。子。報。る。追。形。り。緩。慢。の。罪。を。免。れ。ぬ。信。々。の。緯。切。り。
 高。楓。の。歇。店。の。一。五。十。を。語。り。那。人。身。子。拘。ら。ぬ。未。聞。不。見。の。在



下が必死の危殆を極ひて詩を遺して并夜を跟を晦まてくる事情を
 按ずる不這名聞を歎ひて。清白の義士とい查るる心憎さも一倍不慕志
 之。賤らむ詩を吟味へ在下を極ひても良善の人本性との必らば
 別不縁由ありぬなく思へぬ。然るに俺當面よ活命の恩と忠告の好意を
 謝び聞えん。那人の交す本意は何れと。おのろく俺も亦達て心安
 からば吾疑も釋く由おそれ。争索の達と思ひ。不逆旅主人不詔嘗み
 て。も。姓名を知らば。行状常人不異なれば。唐人醫師と綽號する。丹波の
 人氏おと。とは。听あふ。昨日龜山にて。那人の本邸に在ると。听あふ。儘那里
 まて伴ひ。但馬國なる。那賣絹郎折三との。一路人と相別き。直ち不這里
 小来。之。和殿の配下。地方に住。那醫の素性。姓名。知て。おそ。在。ん。ふ。
 説り。聽。て。ぬ。い。ね。と。語。を。い。後。跡。た。い。ち。驚。馬。記。て。原。來。仄。不。風。聲。ありし。
 去。日。尚。掛。の。客。店。へ。响。馬。の。襲。い。を。二。夜。宿。り。あ。る。旅。人。の。武。勇。を
 て。斫。盡。け。殺。捕。も。志。の。と。听。あ。ふ。和。君。に。上。り。て。あり。よ。ぬ。又。那。可。樂。齋
 の。雙。の。圓。り。稀。有。の。時。人。を。れ。ば。并。夜。の。み。を。帰。り。て。後。の。今。や。ぐ。も。言。も。出
 ぬ。怪。む。足。ら。ば。和。君。を。西。國。の。人。お。ま。と。宣。ひ。ぬ。と。昨日。莊。客。們。が。直。示。せ
 が。那人も亦。舊。の。西。國。の。産。産。原。由。本。貫。素。生。姓。名。の。正。可。み。知。ら。ば。結。れ。ど
 そ。が。僑。居。あ。る。も。便。室。よ。可。樂。齋。とい。ふ。三字。の。額。を。掲。げ。人。を。投。與。る。處。刺
 の。楮。叢。も。如。此。寫。録。せ。り。可。性。老。實。慈。善。も。今。より。九。年。以。前。
 庚申。龜。山。の。逆。旅。に。在。り。自。より。屢。俺。村。に。貧。宴。兒。們。の。病。疔。を。極。ま。り。隱
 徳。の。妻。かり。志。が。城市。に。あり。て。塵。俗。の。交。を。教。ふ。や。それ。次。年。不。國。中。幽。僻
 にお。這。里。へ。移。ら。せ。り。地方。の。幸。小。あ。り。記。と。酒。家。に。勿。論。闔。邸。の。丙。丁。と。お
 く。東。西。を。餽。り。の。愛。敬。を。れ。ば。潔。白。寡。欲。の。人。が。富。小。あ。り。ぬ。と。負。ら。も。か。

外物ま似ぬ健より。去年の春れ未ふ故郷へ上境ま移り。五月の上頭月。
 飄然として帰るぬ縁公首途中人よ告げ情由を写録心を書齋の壁
 子貼措り起行りるに宛ら債ある者の脱れ教と宅を捨て夜艾も逃ほ似
 多りある。天姓奇異の人品形色生平要あるを述るの外俗談周話
 を臆措く思ふ氣象あり。それ偏僻子憚りつ同窓記も黙止せられ忌
 び其本貫素生るども。航て逢せぬ時和君の自ら詢せぬ。知る由も
 はんふ処へ小厮百舌吉が遽走く走来。剛才可樂齋ぬりの来あり。
 と告語を茂弥太の所敢て現噂をせられおとと。獨語と遽走く
 種季子對ひて目今那人をよく相伴あるべし。一霎時等せぬやと客
 房を出て百舌吉共侶。那方をゆくゆけける。登時種季へ寂然と
 て。獨りほくく思ふやう。方纔主人のいれらる可樂齋とも。西國の人形り

と。听も宿昔の偲び。潜びて冤家を索る術。俺妻を生る悪
 つ。通稱をば苗字と侶ふ更めて重太郎とも。岩見とも。いひ言まぬ
 身上ある。那人尙も。俺故郷名嶋四下人ふてもありん。俺をよく
 認得むる。料り難かり。緯の利害を者ふむ。那可樂齋とや。尙俺
 父兄の冤家なる。成瀬盈純。廣瀬持世。大川國忠。們ふ所縁ある者あり。バ
 んと知る。左證もいふ。穿鑿す。那奴們。往方。照驗をも得る術。あら
 ん。知らば。卻俺久を。冤家們の方へや報告られん。否々。使て然る者。形ら
 ば。皆掛ふ。争り。俺を。極之。那処の。歇店。竹松が。話説といひ。這頭。の。里人
 は。人ふ。愛物。も。本性。慈善。の。老實。人。惡を。資助。け。邪ふ。黨。せん。該。お。お。
 噫。それ。あ。三思。も。過。鈍。中。は。よ。再。生。れば。是。可。お。り。孔子。の。教。ふ。隨。せ。人の。
 然。れ。れ。何。ん。人。形。らん。蚤。く。も。主人。に。伴。へ。う。と。ま。の。久。老。紀。千。歳。の。鶴

を繪^ゑね一室^{ひとむら}の紙^し門^{かど}を。外^と方^{はた}より呼^よ門^{かど}志^しの。静^{しず}みむらたて找^{さが}み入^いる家主^{かみ}
 中^{ちゆう}や太^たの後^{のち}方^{はた}不^ふ。相^あ伴^{ばん}は。是^{こゝ}即^{すなは}別^{べつ}人^{にん}の如^{ごと}くぞ。唐^{たう}人^{にん}醫^い師^しと渾^{こん}名^なせられし。
 那^な可^か樂^{らく}齋^{さい}の翁^{おきな}あり。但^{ただ}見^み頭^{かぶ}み。皂^{そう}黑^{くわい}頭^{かぶ}巾^{きん}を載^のせ。肌^{はだ}も多^{おほ}量^{りやう}黄^{わう}紬^{ぢゆう}の寒^{さむ}
 衣^いを着^きて。油^{あぶら}緑^{ろく}形^{かたち}披^ひ風^{ふう}を被^おり。額^{ひたい}も鉄^{てつ}のよる年^{とし}をまじり。齡^{らじ}も六十
 有^あ餘^りと知^しれ入^いる。桃^{もも}花^{はな}面^{めん}相^あみ。眼^{まなこ}清^{きよ}く躬^{かみ}瘦^{すく}る。偃^{えん}蹇^{せん}奴^に松^{しょう}ふあり積^つむ
 雪^{ゆき}れ。鐵^{てつ}の長^{なが}濱^{はま}る。長^{なが}髻^げに半^{はん}白^{はく}髪^{かみ}間^まをける。有^あ理^り間^ま鷗^{おう}痴^ち鹿^かを侶^{りよ}と。一^{いつ}著^{ちやく}
 糸^{いと}を。亂^{らん}れ。塵^{ちん}世^{せい}を。避^さて醫^いト。隱^{いん}れ。這^{こゝ}一^{いつ}表^{ひょう}の高^{たか}士^しと。詢^とて著^{ちやく}
 人^{にん}品^{ひん}之^の。登^{のぼ}時^{とき}茂^{しげ}弥^や太^たの笑^{わら}まげ。種^{しゆ}季^きの對^{たい}ひ。這^{こゝ}方^{はた}さる。和^わ君^{きみ}の索^{さく}ねあり。
 先生^{せんせい}よ。おろ。倚^より。と提^{てい}撕^しる。種^{しゆ}季^きの遠^{とほ}く。席^{せき}を。起^たて。容^{よう}と。伎^ぎぬ。這^{こゝ}恩^{おん}人^{にん}
 して。か。り。る。よ。と。上^{かみ}座^ざを。讓^やりて。頻^{しん}に。請^{こゝ}ふ。け。る。

復讐言石見英雄録第五輯卷之一終

